

びわこ文化公園都市将来ビジョンに係るこれまでの議論の整理

項目	第 1 回検討委員会	第 2 回検討委員会 (委員スピーチなど)	施設・機関へのヒアリング	
			課題	将来に向けた意向
交通アクセスについて ※青字は地区の外部に係る項目。	バス	<ul style="list-style-type: none"> バス路線の公園内への乗り入れ、公園内を巡回する電動カーの設置、現行バスのダイヤの見直しなどによるアクセスの改善。 <u>バスを中心としたフィーダーシステムの改善（利用者を確保する施策を含む）。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>JR 駅から遠いため、公共交通によるアクセスが不便である。</u> 滋賀医大附属病院までのバスの便数は比較的多いが、福祉ゾーンまで来るバスが少ない。 文化施設とバス停がある場所とが離れているため、高齢者等が利用しにくい。 施設間の距離が離れており、また、施設間をつなぐバスの路線も少ないため、移動が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> バスの増便やルートの見直し、バス停の位置の検討などによる JR 駅からのアクセスの向上。 びわこ文化公園都市内の各施設をつなぎ、巡回するバス路線の整備による利便性の向上。
	道路	<ul style="list-style-type: none"> 地区を東西に貫通する道路の整備。 <u>名神・新名神等の基幹交通ネットワークを有効活用するための道路整備。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>南側の地域とこの地域を結ぶ道路が未整備なため、アクセスが不便である。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>対象地域の南側の地区からのアクセスの向上。</u>
	新交通	<ul style="list-style-type: none"> バスの通行には危険性や排気ガスの問題があるため、電動カートを用いたシステムの検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>平野南笠線や LRT など、新たな交通アクセスの検討。</u> 駐車場から各施設へのアクセスのための電気自動車の導入。 レンタルサイクルなどによる移動ための仕組みをつくること。 <u>外部滞在者の移動を確保するカーシェアリングなどの仕組みの検討。</u> 当該地区に適した環境負荷の少ない交通システムの検討。 	
駐車場について	<ul style="list-style-type: none"> 文化ゾーンの東と北の駐車場は満車になることが多いが、西駐車場が活用されていないため、西の活性化を考えることが必要。 長寿社会福祉センターの利用者は 95% が車で来ているが、イベントが重なると駐車場が足りなくなる。 附属病院の利用者は、車とバスが半々くらいだが、駐車場は不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化ゾーンの各駐車場の機能の見直しや、障害者駐車スペースの徹底に関する取組。 各施設の共通の駐車場の設置。 駐車施設の適切な配置と運用（駐車マネジメントの検討を含む）。 	<ul style="list-style-type: none"> びわこ文化公園（文化ゾーン）の駐車場の容量が足りておらず、利用者の多い土日には、満車になることが多い。 福祉施設の駐車場についても、足りていない施設が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化ゾーンの駐車場の拡張整備。 福祉ゾーンの各施設が共有できる駐車場の整備。 未利用の区域を活用した駐車場の整備。
バリアフリーや安全性について		<ul style="list-style-type: none"> 歩行環境の改善、地区内の屋外空間におけるバリアフリー対策。 屋根のある休憩所の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の幅が狭く、車椅子で移動しにくい箇所がある。 周辺道路の交通量の増加のため、注意を要する。 街灯が少なく、交番も無いため、日没後などに不安を感じることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子の通行可能な歩道や、自転車と歩行者の分離などによる、公園内の各ゾーンをつなぎ、安全で歩きやすい歩道の整備。 街灯の整備、充実。
サービス施設等について	<ul style="list-style-type: none"> 病院の近くに、コンビニ、飲食店、薬局がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 食の空間（レストラン、カフェテリア）の設置。 緑の中に、オープンカフェ、コンビニ、セレクトショップなど民の機能を導入すること。 附属病院の近くに薬局を誘致すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事や買い物ができる場所が少ないため、不便である。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事や買い物ができる場所の整備。
森林（緑の回廊）について	<ul style="list-style-type: none"> 市民がもう少し森の奥に入っていけるようにしていくこと。 先進的な取組を見習いながら、周囲のステークホルダーが自分たちの森として管理していけるような方法を考えていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林浴・健康に関わる広域散策回遊路の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹林地などに下草が繁茂しており、景観が悪くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹林地や街路樹等の適切な管理の推進。 山林などを活用した遊歩道やアスレチックなどの整備。

項目	第1回検討委員会	第2回検討委員会 (委員スピーチなど)		施設・機関へのヒアリング	
				課題	将来に向けた意向
機能や施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀医科大学では、「眠りの森」事業に取り組んでいるが、この地域には、このような潜在的な可能性がある。 ・こうした森に、癌関係などのケア施設を検討すること。 ・散歩やランニングをしている人も多く、運動にはとても適した場所なので、もっと広報して活用していくこと。 	文化			<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀の仏像文化を活かした博物館等の整備による、他府県も含めた利用の活性化。 ・東側の区域における文化をシンボライズする施設の整備の検討。
		医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学の連携による、先進医療を実施する高度医療センターの設立。 		<ul style="list-style-type: none"> ・閑静で緑豊かな環境を活かしたガン患者の緩和ケア施設や先進医療を実施する高度医療センター等の整備。 ・自然環境や医療・福祉関連施設の集積を活かした、患者等の回復過程を支援できるような仕組みの検討。 ・福祉関連施設の集積強化による県の福祉拠点としての機能の充実。
		研究	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の自己処理を合わせ持つグリーンイノベーション型研究施設の導入。 ・新エネルギー創出の施設建設の候補地としての検討。 		<ul style="list-style-type: none"> ・大学等の教育、研究機関の集積を活かし、国際的な競争力のある学術研究都市としての機能の充実。
		レク・居住・防災ほか	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設と連動した市民が自然を満喫できる施設等の充実。 ・びわこ文化公園都市内で活動する人向けの住居施設の整備の検討。 ・大規模な災害に対応し、避難や救護ができる自己完結型のレスキューゾーンの形成。 ・瀬田駅・石山駅周辺との有機的な連携の強化による相互の都市機能の向上。 ・新たな施設（機能）整備の可能性の検討。 		<ul style="list-style-type: none"> ・野外ステージの設置による公園イベント等の活性化。 ・四季の花が楽しめるなど、多くの県民が憩えるような場としての魅力の充実。 ・スポーツ関連施設の導入による生涯スポーツの拠点としての整備。
利用の活性化について	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが「ほんもののアート」に触れることができるように、県下の小中学生が、在学中に一度は美術館に来館するシステムをつくること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者目線に立った施設運用が必要。 ・定期的なイベントの開催（屋外美術ビエンナーレ、屋外コンサート、ウォークイベントなど） ・図書館の休館日を週1日とすること。 ・「みなみくさつまつり」と連動した、各施設や大学、自治体等の連携によるイベントの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹林のまま残されており、有効に利用されていない区域がある。 ・各種法規制等のため、イベントなどで活用することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規制の緩和などによる、イベント利用の促進。 	
情報発信・PRについて		<ul style="list-style-type: none"> ・「文化の森」など、親しみやすい名称への変更。 ・道路標識等の充実。 ・「びわこ文化公園都市」としての広報活動の強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・びわこ文化公園都市の知名度がまだまだ低く、どのような施設があるかということが、あまり伝わっていない。 ・施設の案内標識等が分かりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民に親しみを持ってもらえる名称への変更の検討。 ・びわこ文化公園都市に関する広報、周知の充実。 ・案内標識やJR駅での案内などの充実。 	
地域内の連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・有力な施設がたくさんあるが、横のつながりがないという点が課題。 ・横につなげようという設計になっていない。 ・個別の施設の管理規則が、いわゆるタテ割りになっており、制度的にも、空間的にもバリアがたくさんある。全体のコンセプトを見直して、トータルなランドデザインを考えていくことが必要。 ・今ある施設を活かして、どのように交流を図っていくかが重要。 ・医大としても、他の施設とコラボレーションしていくことが重要だと考えており、病院で図書館や美術館、埋蔵文化センターを紹介するなどの連携は可能。 ・制度的な問題、あるいはアクセスの問題などを共有して、地域内連携を図っていくことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ゾーンの各館の管理規則を見直し、全体としての管理規則を作成すること。 ・協議会の設置等による各施設の連携の強化。 ・現状の課題解決を図りながら、関係者が知恵と力を合わせていくため、地域内の情報交換、交流を図り、課題や資源を共有し、周辺地域との連携・協働を図っていくことが必要。 ・既存の施設間の連携強化が必要。 ・全体をマネジメントする組織の検討。 ・地区内における機能配置の再検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設間の交流、特に分野の異なる施設との交流が少なく、びわこ文化公園都市としての一体感に乏しい。 ・施設間での交流が少ないため、互いの取組の内容などについての情報が不足している。 ・施設同士の公的な連携体制が無い場合、連携事業や共同研究などを行うことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の間で情報交流や連携に関する提案などができる交流の場の設置。 ・文化施設、医療・福祉施設、学校等の連携によるサービスや事業、イベント等の実施による利用の活性化。 ・大学と福祉施設等との連携による共同研究の促進。 ・福祉施設と美術館との連携によるアール・ブリュットの取組の検討。 ・施設間での駐車場の融通や利用料金の軽減などの、相互協力の仕組み。 ・各施設の従業者のための保育所など、福利厚生施設の共有に関する検討。 ・光ケーブルによるネットワークなどの情報通信基盤の整備による施設間の連携の強化。 ・地域住民や学生、各施設の利用者等の憩いや交流の場となり、各種活動や施設間連携の拠点となる施設の設置。 ・福祉施設等の利用者が、菜園やガーデニングなどができる屋外の共有スペースの整備。 	

項目	第1回検討委員会	第2回検討委員会 (委員スピーチなど)		施設・機関へのヒアリング	
				課題	将来に向けた意向
産官学連携について	<ul style="list-style-type: none"> 産官学連携は大変重要である。滋賀医大のイノベーションセンターは常に満杯で、地元企業の意欲も高くなっており、ニーズは非常に大きい。 	医工連携	<ul style="list-style-type: none"> 「医工ものづくりネットワーク」をさらに展開し、医療、健康福祉に関する研究開発ゾーンをつくる。 		<ul style="list-style-type: none"> 特区の設置等による既存の大学等の集積を活かした、医学と理工学の連携促進。
		その他	<ul style="list-style-type: none"> 「びわ湖緑のイノベーション拠点づくり」による産業拠点の形成。 		<ul style="list-style-type: none"> 工業技術センターの誘致などによる研究施設の集積による研究開発拠点としての機能の強化。 海外企業が拠点を置けるような研究開発施設の設置による、国際競争力の強化。 各大学や企業等が共用できる研究開発施設の設置による産官学連携拠点としての機能の強化。
住民参加やエリア外との連携について	<ul style="list-style-type: none"> 広大なエリアを将来的に維持管理していくためには、市民、住民の参画ということが、資金的な面も含めて重要。 所有と利用を分離して、ステークホルダーとして住民が関わっていく参加型の仕組みを視野に入れていくこと。 田上の方には農地が広がっているが、そうした多様なステークホルダーが活用していけるようなプラットフォームが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 県民活動の場として、県民ファンドによる里山保全等の維持管理や、「新しい公共」によるコミュニティビジネスについて検討すること。 この地域の普通の生活の質の高さや、優れた資源の集積を、地域住民が再評価し、地域づくりの原動力にしていく取組が必要。 地域の魅力を海外に発信することによる、地域への愛着や地域づくりの原動力の醸成。 交流施設の整備やホストファミリーの募集などにより、地域住民と留学生の交流を促進すること。 管理や運営、利用に地域住民が参加していく参加型プログラムの展開。 参加型プログラムを可能にする諸団体の連絡調整、連携体制づくり。 周辺の大企業の巻き込みによる対象地域の活性化。 様々な活動をマネジメントする地域住民や企業を中心とした組織の検討。 			<ul style="list-style-type: none"> 学生やNPO等への交流施設の運営の委託。
法規制、区域、ゾーニングについて	<ul style="list-style-type: none"> 元の土地利用計画では、文化クラスターとしてのエリアが龍谷大学の横に広がっているが、実際は、ほとんどが保安林になっていて触れなくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスター、各施設間の相互の関連性がない。特に、住宅地区と他のゾーンとの関連性がない。 対象地域の現状を踏まえ、計画地全体の意味づけ、ゾーニングを見直し、関連する地区の保安林・残置森林を見直すこと。 周辺地区の具体的な活用検討に基づいた地区の範囲の見直し。 対象地域の枠の中だけでなく、周辺地域を一体的に考えていくことが必要。 		<ul style="list-style-type: none"> 法規制のため、施設を拡張することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 開発等に関する各種規制の緩和の検討。 隣接地などを含めたびわこ文化公園都市の対象区域の見直し、および一体的な活用。
全体的な将来像について		<ul style="list-style-type: none"> 計画推進をマネジメントできる組織を整備し、責任体制を明確にすること。 大学生の地域の学びの場として、里山保全、福祉・健康教育や、大学による身近な地域貢献の場として活用すること。 スポーツと健康を柱にした地域や各機関との協力によるコミュニティづくり。 			<ul style="list-style-type: none"> 文化の情報発信基地としてのさらなる活性化。 樹林地等の管理や街灯整備などによるびわこ文化公園都市全体の環境の向上。 瀬田丘陵生産遺跡群などの歴史を活かした文化公園都市のあり方の検討。 森林の魅力を活かすとともに、既存の施設等を活性化することによるびわこ文化公園都市の魅力の充実。